

## 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士学生の医療関連感染予防に関する

## 知識の習得度調査

理学療法士学科昼間部

## 【目的】

リハビリテーション関連職種は素手で患者に接する機会が多く、医療従事者として基本的な感染予防対策が必須である。WHO 患者安全カリキュラムガイドの感染予防と管理において<sup>1)</sup>、標準予防策の実践など、学生に求められることが記載されている。しかし、卒前教育において医療関連感染予防についての教育が不十分とされている<sup>2-3)</sup>。

今回、理学療法士（以下 PT）・作業療法士（以下 OT）・言語聴覚士（以下 ST）を養成する専門学校に所属する学生を対象とし、医療関連感染予防に関する知識の習得度の実態を調査することを目的とする。

## 【方法】

研究対象は、大阪医療福祉専門学校の PT 学科・OT 学科・ST 学科に所属する全学年 648 名とした（平成 29 年 9 月 1 日時点）。

調査内容・方法は、回答する学生の所属学科・学年及び一般属性に関する項目①学科②学年③年齢④性別⑤社会人経験の有無（職種内容・医療関係職種）と、医療関連感染予防に関する 21 項目の定義の知識の有無を、無記名自記式質問紙調査法（集合調査法）で収集した。分析方法は記述統計と  $\chi^2$  検定を使用した。

## 【結果】

全学科の結果では、インフルエンザ・ノロウイルス・結核・B 型肝炎・医療関連感染・尿路感染・個人防護具・手指衛生が必要とされる状況・手指衛生・流行性ウイルス感染症の項目が 50%以上の知識の習得度がある。MRSA・血流感染・標準予防策・感染経路別予防策・針刺し・無菌操作・人工呼吸器関連感染・多剤耐性菌・N95 マスク・感染制御チーム（以下 ICT）・クロストリジウムディフィシルの項目が 50%以下の知識の習得度である。

各学科の結果では、感染経路別予防策・標準予防策・ノロウイルス・インフルエンザ・結核・人工呼吸器関連感染・尿路感染・無菌操作・多剤耐性菌の項目では、PT 学科・OT 学科・ST 学科で有意差は見られなかった。

医療関連感染・クロストリジウムディフィシル・手指衛生・針刺し・流行性ウイルス感染症・N95 マスク・B 型肝炎・ICT の項目では、ST 学科は PT 学科・OT

学科より有意差が見られた。また、PT 学科と OT 学科では有意差は見られなかった。

個人防護服の項目では、PT 学科は OT 学科より有意差が見られたが、PT 学科と ST 学科・OT 学科と ST 学科では有意差は見られなかった。

血流感染・手指衛生が必要とされる状況の項目では、ST 学科は OT 学科より有意差が見られたが、PT 学科と ST 学科・PT 学科と OT 学科では有意差は見られなかった。

MRSA の項目では、PT 学科は OT 学科より有意差が見られ、ST 学科は PT 学科より有意差が見られ、ST 学科は OT 学科より有意差が見られた。

## 【考察】

ST 学科・PT 学科・OT 学科の順番で感染について学生の知識があると考えられる。

ST 学科がより知識がある理由として、本校言語聴覚士学科は 4 年制大学卒業以上が受験資格となっているため、入学前から感染の知識を持って入学していると考えられる（社会人経験ありとなしで知識に有意差が認められた）。

また、ST 学科は摂食嚥下障害の治療を行うため、PT 学科・OT 学科と比べ、より感染についての教育を受けていると思われる。

## 【参考文献】

- 1) WHO 患者安全カリキュラムガイド多職種版。東京医科大学医学教育学・医療安全管理学。2012。
- 2) 辻いづみ：医療関連感染予防の観点からみた理学療法士養成施設カリキュラムの問題点について。滋慶医療科学大学院大学修士論文。2015。
- 3) 木津純子：医学部・看護学部・薬学部における感染制御教育の実態。環境感染誌。30(3)，2015，202-206。